

7 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

岩木川は、流域に暮らす人々の生活・産業・歴史・文化・経済などを支え育んできた。

生活の糧としてシジミ採りや漁業、また、先祖の霊を送る灯籠流しなどが昔から行われ、現在では釣りやカヌー競技等、スポーツ、レクリエーションにも利用されている。

このように岩木川では地域の生活と深く関わりを持っている。



シジミ漁

(出典：十三漁業協同組合)

十三湖のヤマトシジミは全国的にも有名。
漁獲量は、島根県宍道湖、青森県小川原湖に次ぐ
国内第3位。

漁獲量は年間約2200トン。

漁期は4/10～10/15で、この間の7/20～8/20は
産卵期のため禁漁期間としている。



灯籠流し

(出典：藤崎町経済建設課)

「灯籠流し」は先祖の霊を送る儀式として昔から
ごく自然に行われている。とても風情のある行事
で、この地域の夏の風物詩となっており、見ている
と心があたたまり、やさしくなる。

毎年8月20日に藤崎町の白鳥ふれあい広場前の
平川を会場に行われている。灯籠の数は約600個に
および、とても幻想的である。



白神カップカヌー大会

(出典：西目屋村企画観光課)

「岩木川の豊富な流量を利用し村おこしにつな
げよう」と西目屋村が実行委員会となり村役場に近
い特設競技場で毎年6月に行われている。競技は、
旗門を通過するスラロームや1,500mの距離をひた
すら一直線に下るワイルドウォーターの2競技を競
う。コースは高低差が少なく比較的緩やかなことか
ら、初心者や上級者までが入り混じって参加してい
るので、誰でも気軽に楽しめる。

図 7-1 岩木川の河川利用

岩木川の内水面漁業における漁業対象魚は、ヤマメ、イワナ、アユ、ウグイなどで、漁業実態は表に示す通りである。最近 10 年では、アユの漁獲量が増えている他はあまり変化はない。

表 7-1 岩木川の漁業実態

対 象 漁種名	漁獲量 (t / 年)									
	1993 H5	1994 H6	1995 H7	1996 H8	1997 H9	1998 H10	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14
ニジマス	6	6	6	4	4	3	3	3	2	2
ヤマメ	8	8	9	8	9	10	10	10	9	9
イワナ	5	5	6	5	6	4	5	5	4	5
サケ・マス類	3	2	2	3	3	2	2	3	4	4
アユ	7	7	13	7	15	17	17	17	36	43
コイ	34	34	36	32	34	33	34	33	33	32
フナ	21	21	21	16	21	18	19	19	16	18
ウグイ	30	30	28	21	27	30	31	29	30	30
その他	59	59	70	56	35	9	9	8	6	6

(出典：「青森県漁業の動き」東北農政局 青森統計・情報センター)



アユ釣りの様子

(出典：岩木川漁業協同組合)

7-2 7-2 河川敷の利用状況

河川敷ではスポーツ、レクリエーション、自然体験学習なども行われている。具体的な行事としては、「津軽花火大会」、「五所川原全国凧揚げ大会」等があげられ、自然学習の場、交流やふれあいの場としても重要な空間となっている。



津軽花火大会

(出典：藤崎町経済建設課)

本花火大会は、南津軽地方における最大の花火大会で、4千発もの花火が津軽平野の夜空に色とりどりの大輪の花を咲かせる。毎年約18万人の観衆が、夜空に瞬く光に酔いしれながら、去りゆく夏の記憶を、そっと、こころの引き出しにしまいこむ。



五所川原全国凧揚げ大会

(出典：五所川原市観光課)

全国各地から個人や団体が参加し、創作凧や伝統凧など6部門に分かれて凧の揚げ方や見栄えなどを競い合う大会である。一番の見物は団体の部で揚げられる津軽大凧で、その大きさはたたみ8畳ほどにもなる。



野鳥観察会

(出典：青森河川国道事務所資料)

岩木川と平川の合流点に位置する「みずべの学習ひろば」などは、近隣の小中学生らを対象に野鳥観察などの自然体験学習の場として活用されている。

図 7-2 岩木川の河川敷の利用状況